

*2004年2月25日発表（本リリースは、2004年1月28日に米国で発表されたプレスリリースの日本語版です）

[ご参考]

ザ・ハートフォード・ファイナンシャル・サービシズ・グループ、 2003年第4四半期業績ならびに通年業績の概要を発表

**損害保険および生命保険ともに過去最高利益、前年同期比76%増の純利益を達成、
日本法人ハートフォード生命保険の2003年通年販売額は4,305億円に**

[米国 コネチカット州ハートフォード 2004年1月28日]

大手保険および金融サービス会社であるザ・ハートフォード・ファイナンシャル・サービシズ・グループ (NYSE: HIG、以下「ハートフォード」) は本日、2003年第4四半期(2003年10～12月、以下「当四半期」)の業績を発表しました。当四半期の1株当たり純利益¹は、前年同期の1.01ドルから57%増加し1.59ドルに達し、純利益は前年同期の2億5,800万ドルから76%増加し4億5,400万ドルとなりました。前年同期には3,800万ドルの正味実現キャピタル・ロス²を計上したのに対し、当四半期は2,900万ドルの正味実現キャピタル・ゲインを計上しました。正味実現キャピタル・ゲイン/ロスには、デリバティブにかかる現金決済額が当四半期に800万ドル、前年同期には500万ドルがそれぞれ含まれています。

ハートフォードの日本法人であるハートフォード生命保険株式会社では、当四半期の変額年金保険販売額が1,267億円に達し、2003年通年の販売額は4,305億円を達成しました。また、特別勘定の資産残高は前年同期3.26倍の6,668億円に達しました。これによりハートフォード生命保険株式会社は3四半期連続で、米国GAAP会計基準で黒字を計上しました。

ハートフォードの会長兼最高経営責任者であるラマニ・アイアーは次のように述べています。「当四半期および2003年を素晴らしい業績発表で締めくくることができました。1年前に比べ、当社は一段と事業が強化され規模が拡大し、また、将来に向けた体制が整いました」。

「当四半期は多くの点で記録的な四半期となりました。年金販売額、ミューチュアル・ファンド販売額、損害保険の経常利益が新記録を達成し、コンバインド・レシオも堅調で、また企業向け損害保険の収入保険料は初めて10億ドルを突破しました」。

「当四半期のみならず、2003年を通じ当社は成功裡に事業を導き、また幾つもの困難な経営判断

¹ 株式数については転換権の行使等によって新たに増加した株式を加えた、希薄化後株式数をもとにしています。

² キャピタル・ゲイン/ロスについては全て税引き後の数値です。

を下し、非常に強固な財務体質を構築することができました」。

「年初には、コスト構造の改善という重要目標に向け、経費削減策に着手しました。同時に、わが社ではアスベスト関連の責任準備金を徹底的に研究し、深刻化するアスベスト問題に対策を講じました。どれひとつ容易ではありませんでしたが、将来、成長を成し遂げるためには、今解決しておかなければならない問題ばかりでした」。

「年末には、CNAの団体保険事業の大半を買収し、当社の重要部門の強化を図ることができました。われわれは、業務範囲を拡大できる適切な機会があれば捉えたいと常に考えてきましたが、今回の買収はその方針が具体化した例です」。

「当四半期は素晴らしい実績を収めることができ、当社にとって節目となる年を締めくくる重要な四半期となりました。優れた業績、順調な株式市場および確固たるビジネスモデルに支えられ、新年度にも自信を抱いています」とアイアーは述べています。

第4四半期および通年業績の概要

ハートフォードの2003年第4四半期（2003年10～12月）の経常利益³は、前年同期比44%増加しました。生命保険事業および損害保険事業双方で経常利益は過去最高に達しました。

2003年通年ベースでは、第1四半期に17億ドル（税引き後）のアスベスト関連責任準備金の積み増しを行ったため、2002年に10億ドルの純利益を計上したのに対し、9,100万ドルの純損失を計上しました。ただし、2002年の2億3,400万ドルの正味実現キャピタル・ロスに対し、2003年は1億9,100万ドルの正味実現キャピタル・ゲインを計上しています。正味実現キャピタル・ゲイン/ロスには、デリバティブにかかる現金決済額が2003年は2,900万ドル、2002年には1,600万ドル、それぞれ含まれています。

ハートフォードの当四半期業績の概要

- 投資商品の運用資産残高は過去最高の1,465億ドル、純増加額(販売額から解約額とその他の引出額を引いた額)は35億ドルに達しました。
 - 年金の合計販売額は44億ドルで、そのうち変額年金保険の販売額は41億ドル、前年同期比で17%の増加を記録しました。
 - 変額年金保険の純増加額(販売額から解約額とその他の引出額を引いた額)は16億ドルと好調でした。変額年金保険以外では、ミューチュアル・ファンド、政府および団体向け投資商品がその他の純増加要因です。
 - ミューチュアル・ファンドの販売額は3四半期連続して10億ドルを突破する記録的水準に達し、当四半期は16億ドルと前年同期比96%増加、前期比では44%増加しました。

³ ハートフォードの経常利益は、GAAP会計基準に準拠しない方式で算出されています。本リリースで用いた非GAAP方式に関する詳細は、後述の「非GAAP方式による財務数値の算出方法について」の項をご参照ください。

- 401(k)の販売が引き続き好調な伸びを示し、前年同期比 65%増加の 5 億 7,000 万ドルに達しました。また、団体向け投資商品の販売は、前年同期比ほぼ 3 倍の 11 億ドルに達しました。
- 損害保険事業の経常利益は 2 億 1,100 万ドルと過去最高水準に達し、前年同期比 49%の増加となりました。
 - 北米損害保険事業のコンバインド・レシオ(損害率と経費率との合計値)は 95.6 でした。これは災害損失 3,000 万ドル(コンバインド・レシオの 1.3 ポイント分)を含んでいます。
 - 個人損害保険のコンバインド・レシオは、災害損失(コンバインド・レシオの 2.7 ポイント分)を含めて 96.8 と引き続き順調でした。
 - 北米損害保険事業(企業向け損害保険、商用スペシャルティ保険および個人損害保険)の収入保険料は前年同期比 13%増加し 22 億ドルに達しました。また、正味計上保険料は前年同期比で 9%増加し 21 億ドルに達しました。
 - 企業向け保険の計上保険料は初めて 10 億ドルを突破しました。
 - 企業向け損害保険の新契約額は当四半期 2 億 6,500 万ドル、通年では 10 億ドルに達しました。
 - ウェスタン・マッカーサー社との間のアスベスト関連訴訟の和解が発表されました。
- 米国内でのその他のハイライト
 - 損害保険事業の正味資産運用収益(税引き前)は、主としてキャッシュフローが順調に推移し、また 2003 年 5 月に増資を行った影響により前年同期比 8%増加しました。
 - 個人損害保険では、運転者の分類を細分化した自動車保険クラス別新規プランを、現在 33 州で扱っています。
 - 団体保険では、買収分を除いた完全保証型の販売額は前年同期比 43%増、純利益は 14%増加しました。CNA の団体生命保険および就労不能保険事業の買収を 2003 年 12 月末で完了しました。
 - 個人生命保険部門では、前年同期比で販売額は 46%増加し、純利益は 21%増加しました。

次頁の表は、損害保険事業の企業向け損害保険、個人損害保険、商用スペシャルティ保険、再保険部門およびその他部門の引受業績と、生命保険事業の各部門および損害保険事業ならびに持株会社の経常利益を示しています。

事業部門別業績

(単位：100万ドル)	第4四半期(10月～12月)			通年(1月～12月)		
	2003年	2002年	増減	2003年	2002年	増減
生命保険事業部門(経常利益)[1]						
個人年金	\$ 111	\$ 78	42%	\$ 392	\$ 333	18%
その他の投資商品	31	19	63%	118	99	19%
投資商品合計	142	97	46%	510	432	18%
個人生命保険	41	34	21%	145	133	9%
団体保険	41	36	14%	148	128	16%
企業加入生命保険	10	12 (17%)		(1)	32	NM
その他	(4)	(12)	67%	(42)	28	NM
生命保険事業経常利益合計[2]	230	167	38%	760	753	1%
損害保険事業部門						
北米損害保険事業(引受業績)						
企業向け損害保険	51	27	89%	101	44	130%
個人損害保険	25	2	NM	117	(46)	NM
商用スペシャルティ保険	25	(24)	NM	(29)	(23) (26%)	
再保険	(20)	(42)	52%	(125)	(59) (112%)	
引受業績合計	81	(37)	NM	64	(84)	NM
その他事業(引受業績)	(59)	(35) (69%)		(112)	(164)	32%
損害保険事業(引受業績)	22	(72)	NM	(48)	(248)	81%
サービングとその他の収益	(7)	8	NM	8	15 (47%)	
正味投資収益[3]	308	284	8%	1,172	1,060	11%
デリバティブにかかる現金決済額(税引前)	4	4	-	18	15	20%
その他の費用	(44)	(56)	21%	(205)	(218)	6%
法人税	(72)	(26) (177%)		(208)	(101) (106%)	
損害保険事業部門経常利益 (2003年実施のアスベスト関連責任準備金積み増しを除外)	211	142	49%	737	523	41%
2003年実施のアスベスト関連責任準備金積み増し	-	-	-	(1,701)	-	-
損害保険事業合計[2]	211	142	49%	(964)	523	NM
持株会社	(8)	(8)	-	(49)	(26)	(88%)
経常利益 (2003年実施のアスベスト関連責任準備金積み増しを除外)[2][4]	433	301	44%	1,448	1,250	16%
2003年実施のアスベスト関連責任準備金積み増し	-	-	-	(1,701)	-	-
経常利益(損失)[2][4]	433	301	44%	(253)	1,250	NM
(+) 正味実現キャピタル・ゲイン(税引後)	29	(38)	NM	191	(234)	NM
(-) デリバティブにかかる現金決済額(税引後)	8	5	60%	29	16	81%
純利益(損失)	\$ 454	\$ 258	76%	\$ (91)	\$ 1,000	NM
1株当たり利益(希薄化後)						
経常利益(2003年実施のアスベスト関連責任準備金積み増しを除外)[4]	\$ 1.52	\$ 1.17	30%	\$ 5.28	\$ 4.96	6%
純利益(損失)	\$ 1.59	\$ 1.01	57%	\$ (0.33)	\$ 3.97	NM

「1」生命保険事業部門のデリバティブにかかる現金決済額は生命保険事業部門に割り当てられています。

「2」経常利益には、デリバティブにかかる現金決済額(税引き後)が含まれています。GAAP会計基準方式では、デリバティブにかかる現金決済額は正味実現キャピタル・ゲイン/ロスに含まれます。

「3」前期以前については、デリバティブにかかる現金決済額は正味資産運用収益から正味実現キャピタル・ゲイン/ロスに科目変更されています。

「4」ハートフォードの経常利益および2003年に実施したアスベスト関連責任準備金積み増しを除外した経常利益は、GAAP会計基準に準拠しない方式で算出されています。非GAAP方式に関する詳細は、後述の「非GAAP方式による財務数値の算出方法について」の項をご参照ください。

ハートフォードでは、200%以上の増減、またはネット・ゲインからネット・ロスあるいはその逆の場合の変動を「NM」(該当せず)と定義しています。

投資商品

株式市場の活況と、優れた販売網と商品の多様化による好調な販売およびキャッシュフローの増加が相俟って、第4四半期の経常利益は大幅に増加しました。個人年金の純利益は前年同期比で42%増加し1億1,100万ドルに達しました。個人年金保険の販売額は、銀行および証券会社双方の販売チャネルでいずれも前年同期を上回りました。個人年金運用資産残高は2003年9月末以降92億ドル増加し、2003年12月31日現在では977億ドルに達しました。投資商品運用資産残高は2003年9月末の1,317億ドルから11%増加して1,465億ドルに達しました。その他の投資商品の当四半期販売額は、ミューチュアル・ファンドの販売額が過去最高の16億ドルに達したため、前年同期比109%増の35億ドルを達成しました。ミューチュアル・ファンドの販売額は、第3四半期比で44%、前年同期比で96%それぞれ増加しました。団体向け投資商品の合計販売額はほぼ11億ドルに達しました。

個人生命保険

個人向け生命保険は当四半期も経常利益が好調で販売額は大きく増加しました。経常利益は、大きな死差益が生じたことを主因として、前年同期比21%増加し4,100万ドルに達しました。販売額は前年同期比46%増加しました。販売額の増加要因は、新商品の導入とユニバーサル生命保険および終身保険の新たな販売促進活動を展開したことにあります。この結果、これら商品の販売額は合計で前年同期比の4倍、3,700万ドルに達しました。

団体保険

団体保険の純利益は当四半期も順調に増加し、前年同期比14%増、第3四半期比では9%増の4,100万ドルに達しました。これは、堅実な契約査定と支払請求管理によるものです。買収分を除いた完全保証型の販売額は、前年同期比43%増の9,300万ドルに達しました。これは販売拡大のため新たなマーケティング、販売促進活動を展開した結果です。この度、買収が完了したCNAの団体保険事業との統合も予定通り進んでいます。この買収は2003年12月31日付で行われたため、これによる2003年第4四半期の損益計算書への影響はありません。

企業向け損害保険

順調な市場環境、新契約料率の改訂および新契約の拡大によって、計上保険料および収入保険料は前年同期比でそれぞれ14%および17%増加し、利益も増加基調を維持しました。新契約の増加は特に中規模企業で順調に推移し、これにより正味計上保険料は2003年通年で10億ドル増加、前年比では17%増加しました。コンバインド・レシオは災害損失（コンバインド・レシオで0.7ポイントに相当）を除き、92.4となり、前年同期（災害損失を除く）から2.6ポイント改善しました。

個人損害保険

自動車保険クラス別新プラン「ディメンションズ」など主要施策が計画通り進展しており、独立代理店を通じた商品販売を今後とも拡大するための中核となっています。独立代理店チャネルによる契約の計上保険料は、前年同期比4%増加していますが、半年契約の増加により、伸張は鈍化しました。当四半期も米国退職者協会(AARP)の会員向け販売が拡大しており、AARP経由の計上保険料は前年同期比11%増加しました。当四半期の個人損害保険のコンバインド・レシオは災害損失分の2.7ポイントを除き94.2ポイントとなり、前年同期3.9ポイント改善しました。

商用スペシャルティ保険

商用スペシャルティ保険の主要4商品の計上保険料は合計で、前年同期比16%増加していますが、前期比では契約の季節的な偏りのため21%減少しました。これらほとんどの商品の対象市場では、物件等級が低下し依然として需要は堅調に推移しています。当四半期の商用スペシャルティ保険のコンバインド・レシオは災害損失分の1.0ポイントを除き92.5に改善しました。これは、前年同期比では8.0ポイントの改善になります。

資産運用

低金利の影響を受け、当四半期の投資利回りは税引前ベースで前年の6.1%から5.7%に低下、税引後ベースでは4.3%から3.9%に低下しました。また、当四半期の不良資産は信用市場の改善を反映して、前年同期の1億2,600万ドル(税引き前)から5,500万ドル(税引き前)に減少しています。なお、当四半期の投資資産の不良資産にはパルマラート社(Parmalat SpA.)関係の保有社債2,500万ドル(税引き前)を含んでいます。

通年業績

アイアーは、通年業績に関し次のように述べています。「2003年は、保険市場は落ち着きを取り戻し株式市場も堅調な年でした。このような環境下、当社は多角化したビジネスモデルと業界屈指の販売基盤、商品開発、堅実な引受ならびに請求管理の徹底などを通じて進展を成し遂げることができました」。

「例えば、企業向け保険においては、新規契約が当四半期に17%、通年でも17%増加しています。北米損害保険事業のコンバインド・レシオは、当年度各四半期とも100を下回っており、正味資産運用収益は全四半期で改善しました。また変額年金保険の販売では通年で過去最高の157億ドルを記録し、前年より51%増加しています。ハートフォードは個人向け変額年金保険の販売においては、依然として全米で業界トップの地位を維持しています」。さらに、ハートフォードは、個人向けのミューチュアル・ファンドの販売額では前年と同額の48億ドル、団体向け投資商品では新記録の34億ドル、また401(k)では14億ドルの販売額を達成し、記録を塗り替えています。

ハートフォードは、2002年通年では10億ドルの純利益を計上しましたが、2003年通年では、第1四半期に行ったアスベスト関連の責任準備金積み増しが原因で、9,100万ドルの純損失を計上しました。1株当たりでは、2002年の3.97ドルの純利益から、2003年は0.33ドルの純損失となりました。比較のために、税引き後のアスベスト関連責任準備金積み増しの影響を除くと、2003年の純利益は16億1,000万ドルで1株当たりでは5.87ドルとなります。また経常利益は、税引き後のアスベスト関連責任準備金積み増しの影響を除くと、前年度の12億5,000万ドルから14億5,000万ドルに増加し、1株当たり(希薄化後)では、4.96ドルから5.28ドルに増加します。

ハートフォードの当年度の業績には、バンコープ・サービシズ社(Bancorp Services, LLC)との訴訟の和解費用4,000万ドル(税引き後)、ハートフォード・ライフの連邦税効果3,000万ドル、損保事業の退職費用(税引き後)2,700万ドルが算入されています。2002年の経常利益には、税効果7,600万ドルおよびバンコープ・サービシズ社との訴訟関連費用1,100万ドル(税引き後)など生命保険事業関連の諸項目が算入されています。2003年の総収入は、2002年の164億2,000万ドルから14%増加し、187億3,000万ドルに達しました。

2004年の見通し

2004年度の1株当たり経常利益は、現在の情報、特に1月の金融市場の動向に関する情報に基づく5.80ドル~6.10ドルと見込まれます。この見通しは現在の市場の水準に基づくもので、2004年の米国株式市場の上昇率を9%と想定しています。なお、従来の経常利益の見通し幅は、1株当たり5.70ドル~6.00ドルでした。

2004年度中にキャピタル・ゲイン/ロスが発生する可能性は極めて高いと思われませんが、今般の2004年見通しにおいては、キャピタル・ゲイン/ロスは見込んでいません。修正見通しに盛り込まれている前提要件としては、ハートフォードの普通株1株当たりの株価が57ドル以上に値上がりすること、エクイティ・ユニットの株式転換による希薄化効果が拡大すること、CNAの団体生命保険事業および就労不能保険事業の買収契約条件ならびに関連した資金調達目的の普通株発行、などがあります。これ以外にも、マッカーサー社との和解費用11億5,000万ドルの調達のため、2004年第1四半期に損害保険事業の投資収益において1株当たり約10セントの損失が発生することが織り込まれています。

2004年の見通しは、生命保険事業および損害保険事業に影響を及ぼす市場環境に変化があった場合には、今後修正を行うものとし、これらの要因としては、株式市場の変動に伴う投資商品の収益見通しの変化、予想を超える災害損失の発生、当社が定期的に行う全保険商品に対する損失準備金の見直しによる影響など、多数あります。

当社の第4四半期業績、および2004年の経常利益の見通しに関するスライド・プレゼンテーションは、当社のウェブサイトでご覧いただけます。(www.thehartford.com/ir/index.html)

非GAAP方式による財務数値の算出方法について

本リリースでは、ハートフォードの業績の分析に「非GAAP方式」を用いています。ここで使用している当社の算出方法は、他社の算出方法と異なる可能性があるため、投資家の皆様が、当社の「非GAAP方式」のデータと他社のデータを比較される際には十分な注意が必要です。

ハートフォードでは、業績を評価する上で、経常利益を重視しています。経常利益とは、純利益から、デリバティブにかかる現金決済額以外の税引き後実現キャピタル・ゲイン/ロスを除いた数字になります。当社は、投資家の皆様に当社の業績を正確に把握していただく上で、変動の激しいキャピタル・ゲイン/ロスを除いた経常利益が重要な目安になると考えています。純利益はGAAP基準に則った会計数字となっています。各四半期、2003年通年、および2002年通年における経常損益から純損益への調整と経常損益の算出方法については上述をご参照ください。

また当社では、投資家の皆様に既存事業の健全性を理解していただくために、2003年に実施したアスベスト関連の責任準備金積み増しは過去の事業に関連するものとし、税引き後のアスベスト関連の責任準備金積み増しを除外した経常利益を報告しています。純利益はGAAP基準の数字となっています。2003年に実施したアスベスト関連責任準備金積み増しを除外した各四半期、2003年通年、および2002年通年における経常利益に対する純損益の調整と経常損益の算出方法については上述の表をご参照ください。

計上保険料は予見的記述でありませんが、当社では損害保険事業の業績を表す重要な要素とみています。計上保険料は決算年度に発行された保険契約に見合う保険料総額となっているため、投資家の皆様は、この数字をご参考にハートフォードが現在販売中の損害保険商品の傾向について理解を深めていただけます。収入保険料は、GAAP基準による会計に最も近い数字になっており、決算年度において収益と認められる保険料の総額を表します。計上保険料と収入保険料との差額は、未経過保険料積立金の変化に拠るものです。

ハートフォードに関するより詳細な財務情報の入手をご希望の方は、当社のホームページ (www.thehartford.com.) にアクセスして、The Hartford's Investor Financial Supplement のページをご覧ください。

* * *

ザ・ハートフォード・ファイナンシャル・サービシズ・グループは米国で最も由緒ある大手保険および金融サービス会社の一つであり、2003年の総収入は187億ドルに達しました。2003年12月31日現在の総資産は、2,259億ドル、株主資本は116億ドルに達しています。ハートフォードは、投資金融商品をはじめ、各種生命保険、団体保険、自動車保険、住宅保険、法人向け損害保険を提供しています。ハートフォード生命保険株式会社はハートフォードの日本法人です。

本リリースには、1995年私募証券訴訟改正法(Private Securities Litigation Reform Act of 1995)において定義されている将来の見通しに関する情報が含まれています。これには、当社の業績及び事業見通しが含まれます。投資家の皆様は、このような将来の見通しに関する情報が、当社の将来の業績を保証するものではなく、また実際の業績は大きく異なる可能性があることをご了解願います。また投資家の皆様は、こうしたリスクおよび不確定要素は将来の当社業績に影響を及ぼす可能性があることをご理解ください。

このような重要なリスクおよび不確定要素として、今後のアスベスト訴訟の展開およびその他の環境問題に係わる訴訟の展開が当社に及ぼす影響などが上げられます。これには、マッカーサー社およびその子会社であるウェスタン・マッカーサー社との間の訴訟に関し発表済みの和解条件が満たされない可能性、同時多発テロ事件に関連した被害理論、損失額、新事実の展開、2003年雇用と成長のための減税調整法 (Jobs and Growth Tax Relief Reconciliation Act of 2003) における、とりわけ長期キャピタル・ゲインや配当配分の税率引き下げに伴う影響、再保険契約を締結している再保険会社の対応、再保険料率引上げに拠る影響、将来の損失を回収するため適切な再保険契約の可能性、年金商品の支払い義務に関連し、株式市場の変動が当社の財務体質や業績に与える影響を効果的に軽減できない可能性、また予想を上回る損害発生の可能性、経済および景気の悪化の可能性、予想を上回る発生率・規模の自然災害または事故の可能性、金利および株式市場またはその他金融市場の変動の可能性、予想を上回り競争が激化する可能性、当社に不利な規制・法律の制定・司法上判断の可能性、当社が現在および将来とも販売チャネルを通じて商品を提供できる可能性、保険金請求問題・担保問題の発生の影響、保証積立金・再発傷害積立金・その他強制的保険プールに対する賦課金および課徴金の影響、保険金支払能力・財務的健全性・信用格付け格下げの可能性、当社に対する子会社の配当支払能力、フォーム 10-Q による当社の季刊報告書・フォーム 10-K による当社の年次報告書・その他 SEC への報告で説明している事項により当社に損失が生じる可能性、などが上げられます。なお、当社では、本リリース発表後にその内容を更新する義務を負いません。

この件に関するお問い合わせ先は下記にお願いします。

ハートフォード生命保険株式会社
コーポレート・リレーション部
ブルース・エルズワース(日本語可)
島崎 正彦
電話: 03-5777-8083/5402-5494
bruce.ellsworth@hartfordlife.com
masahiko.shimazaki@hartfordlife.com

ギャビン・アンダーソン・アンド・カンパニー
笠原佳世
宮川真理
電話: 03-5404-0640
kkasahara@gajapan.co.jp
mmiyakawa@gajapan.co.jp

ザ・ハートフォード・ファイナンシャル・サービシズ・グループ

連結財務実績

(単位：株式部分以外は100万ドル)

	2002年	2003年	2003年	2003年	2003年	前年	前月比	通年			
	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期			2002年度	2003年度	増減	
概要											
純利益(損失) [1]	\$ 258	\$ (1,395)	\$ 507	\$ 343	\$ 454	76%	32%	\$ 1,000	\$ (91)	NM	
経常利益(損失) [1]	\$ 301	\$ (1,361)	\$ 340	\$ 335	\$ 433	44%	29%	\$ 1,250	\$ (253)	NM	
2003年実施のアスベスト関連責任準備金積み増し	\$ -	\$ (1,701)	\$ -	\$ -	\$ -	-	-	\$ -	\$ (1,701)	-	
経常利益(2003年実施のアスベスト関連責任準備金積み増しを除外)	\$ 301	\$ 340	\$ 340	\$ 335	\$ 433	44%	29%	\$ 1,250	\$ 1,448	16%	
総収入	\$ 4,280	\$ 4,331	\$ 4,682	\$ 4,947	\$ 4,773	12%	(4%)	\$ 16,417	\$ 18,733	14%	
総資産	\$ 181,975	\$ 188,657	\$ 207,801	\$ 211,365	\$ 225,853	24%	7%				
運用資産残高[2]	\$ 198,608	\$ 205,223	\$ 227,437	\$ 232,115	\$ 250,368	26%	8%				
1株当たり利益および株式数											
1株当たり利益(損失) [1]											
純利益(損失)	\$ 1.01	\$ (5.46)	\$ 1.89	\$ 1.21	\$ 1.60	58%	32%	\$ 4.01	\$ (0.33)	NM	
経常損益	\$ 1.18	\$ (5.33)	\$ 1.26	\$ 1.19	\$ 1.53	30%	29%	\$ 5.01	\$ (0.93)	NM	
経常利益 (2003年実施のアスベスト関連責任準備金積み増しを除外)	\$ 1.18	\$ 1.33	\$ 1.26	\$ 1.19	\$ 1.53	30%	29%	\$ 5.01	\$ 5.32	6%	
1株当たり利益(希薄化後) [1] [3]											
純利益(損失)	\$ 1.01	\$ (5.46)	\$ 1.88	\$ 1.20	\$ 1.59	57%	33%	\$ 3.97	\$ (0.33)	NM	
経常損益	\$ 1.17	\$ (5.33)	\$ 1.26	\$ 1.18	\$ 1.52	30%	29%	\$ 4.96	\$ (0.93)	NM	
経常利益 (2003年実施のアスベスト関連責任準備金積み増しを除外) [4]	\$ 1.17	\$ 1.33	\$ 1.26	\$ 1.18	\$ 1.52	30%	29%	\$ 4.96	\$ 5.28	6%	
加重平均普通株式発行総数(基本)	255.2	255.4	268.8	282.5	283.0	27.8% sh	0.5 sh	249.4	272.4	23.0 sh	
加重平均普通株式発行総数 及び希薄化潜在普通株式総数(希薄化後) [3]	256.3	255.4	270.2	284.8	285.6	29.3% sh	0.8 sh	251.8	272.4	20.6 sh	
普通株式発行総数	255.2	255.4	282.2	282.7	283.4	28.2% sh	0.7 sh	255.2	283.4	28.2 sh	
1株当たり簿価(留保されたその他の包括的利益を含む)	\$ 42.06	\$ 36.97	\$ 40.75	\$ 40.13	\$ 41.07	(2%)	2%				
1株当たり簿価(留保されたその他の包括的利益を除外)	\$ 37.77	\$ 32.05	\$ 34.34	\$ 35.33	\$ 36.67	(3%)	4%				

[1] 2003年第3四半期および2003年については、バンコプ・サービシズ社(Bancorp Services, LLC)との訴訟和解費用4,000万ドル(税引後)が含まれています。生命保険事業に関して1996~2002税務年度に生じた特定の課税項目に関する課税上の優遇措置が、2003年第2四半期および2003年度については3,000万ドル、2002年度については7,600万ドル含まれています。2003年9第2四半期については、損害保険事業部門の退職金2,700万ドル(税引き後)が含まれています。2000年については生命保険事業部門のバンコプ・サービシズ社(Bancorp Services, LLC)との訴訟費用1,100万ドル(税引後)が含まれています。

[2] ミューチュアルファンドおよびHIMCOが運用する第三者資産を含みます。

[3] 2003年第1四半期および2003年の純損失による反希薄化の結果、GAAP方式により、2003年第1四半期および2003年の1株当たり利益(希薄化後)の計算では、加重平均発行済基本株式数を用いる必要がありました。純損失が生じていなければ、2003年第1四半期および2003年の計算にそれぞれ、加重平均普通株式発行総数及び希薄化潜在普通株式総数、2億6,300万および2億7,420万が用いられていました。

[4] 2003年第1四半期および2003年の計算にそれぞれ、加重平均普通株式発行総数及び希薄化潜在普通株式総数、2億6,300万および2億7,420万を用いました。